

2020年11月25日

アゼルバイジャン産天然ガスの欧州向けパイプライン輸出開始

1. 11月15日、TAP(Trans Adriatic Pipeline)が供用開始されました。TAPはアゼルバイジャンからイタリアまで総延長3,420kmの天然ガスパイプライン(Southern Gas Corridor)の3区間中の最終区間(878km)です。これにより、アゼルバイジャンのシャフ・デニズ・ガス田から欧州のガスパイプライン網までが繋がり、同国産天然ガスが欧州に供給されることとなりました。パイプラインのガス輸送能力は年間160億 m^3 、うち60億 m^3 がトルコ向け、100億 m^3 が欧州向けとされ、将来欧州へ200億 m^3 まで拡張可能な設計となっています。

2. 欧州への100億 m^3 の天然ガス供給は、欧州全体の需要量の2%余りと決して多くはありませんが、欧州の天然ガス供給源の多様化、とりわけロシアへの依存を軽減するという点で、エネルギー安全保障上の意味合いは大きく、欧州にとっての資源国アゼルバイジャンの重要性がさらに高まったと考えられます。

3. また、ガスパイプラインは水素を輸送(ガスと混入)する手段になり得ることから、欧州における脱炭素政策(水素エネルギー推進)との関連で、アゼルバイジャンは将来的に水素製造供給拠点としての新たな価値を発揮する可能性を手にしたとも考えられます。

4. なお、TAPがその一部をなすSouthern Gas Corridorのうちアゼルバイジャン国内区間(南コーカサス・パイプライン)では、今般のナゴルノ・カラバフ紛争においてアルメニア側からのロケット弾等による損壊が危惧されました。近隣都市への着弾はあったものの、幸いパイプラインの被害は生じませんでした。欧州にとっては紛争自体にも増して大きな関心事であったようです。

(以上)